

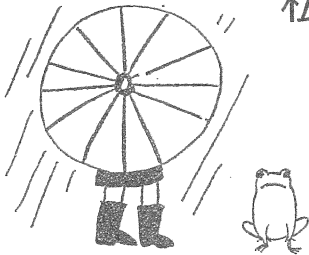
## 図書室月報

2020年(令和2年)6月5日  
第685号

松浦弥太郎著

## 『ほんとうの味方のつくりかた』

伊藤 千香子



今から2年ほど前のことです。タイトルと本の帯に惹かれて思わず手に取った本があります。『センス入門』——帯の背表紙部分には「その差は大きい」と書かれていました。著者は、2015年まで家庭向け総合雑誌『暮らしの手帖』の編集長をなさっていた松浦弥太郎さんです。この本には、センスという「自分なりの美学」を見つけ、それを磨き育てていくためのアイデアやヒントが盛り込まれています。読み進めるうちに、物事や周囲の人々に対する筆者の考え方・接し方に魅了されてしまふ、そんな本でした。

その本を読み終えてから数週間後。出先で思いがけなく本屋に立ち寄った際に、ある1冊の本が偶然目に留まりました。この本こそが今回紹介する『ほんとうの味方のつくりかた』です。前出の『センス入門』を読み終えた私は、すっかり松浦さんの生き方に啓発されていたので、著者が松浦さんだと分かるや否や、偶然見つけた嬉しさもあって、これは読むしかない！と(店内でしたので)密かに興奮したのを今でも覚えています。(笑)

さて、皆さんにはどのような「味方」が付いていると思いますか？家族、友人、同僚、…。私はてっきり、そのような自分と関わりのある人間関係やコミュニティのことばかりを思っていました。こういった自分の回りにいる人たちは「外側の味方」だといえます。そしてもう一つ、私たちには「内側の味方」が存在しているのです。「内側の味方」とは、習慣やものの考え方、資質や性格、生活態度などのように、その人に備わっていて目に見える形ではないものを指しています。この本では、自分を支えている特徴や強みなどを通して「内側の味方」について見つめていきます。

何らかのつながりの中で生きている私たちは、1人でも何かをやりきるには無理がある。どんなに才能がある人も、味方の支えがなければ翼のない鳥のように、空を自由に羽ばたくことは出来ない。味方とは鳥にとつての翼のようなものである。本文中で筆者はそのように述べています。ではあらゆる味方が進んで味方になってくれるには一体どうあるべきか？

それを考えるためのスタートでもあり、「ほんとうの味方」について考える上で一番大切なポイントは、自分が人からされてうれしいことは何か——「自分は何をうれしく思うのか」を見つけることだといえます。そして、それをいつも心掛け、自ら進んで行うことで相手はよろこんで味方になってくれる、のだと。

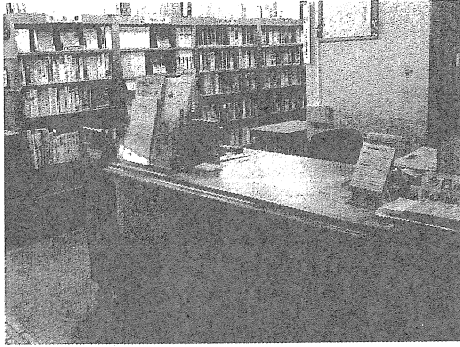
「自分がされてうれしいことを自分から行う」——これによって小学校の時に教わったことで、何も難しいことではない、そう思いました。この本は、慌ただしく過ぎていく日々の中ではほったらかしにしてしまいがちな当たり前のこと、目を向けてこなかったことを見つめ直せる、大事なことに立ち返ることができる、まるで生き方の教科書のような本です。実は私も、自分を見つめ直したいときに何度か読んでいて、現在でも心の拠り所になっています。

この本を最後まで読んだとき、きっと皆さんはなぜだか温かくて心強い気持ちになっていると思います。それは他でもなく、この本が、松浦弥太郎さんが読者の「味方」になっているからです。皆さんもこの本と一緒に、ご自身や身の回りと一度向き合ってみませんか。必ず、心強い「味方」がいるはずですよ。

(筑摩書房)



# 公民館図書室のご案内



## 【利用時間】

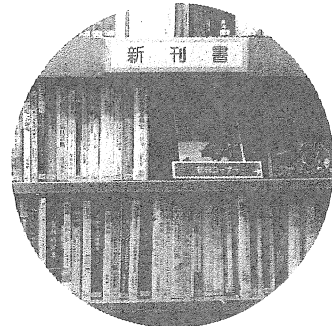
午前9時～午後5時  
(水曜日・土曜日は午後8時まで)  
祝祭日は、休業日をのぞき、  
午前9時から午後5時まで開いています。

## 【休業日】

月曜日・年末年始・特別整理期間  
\*新型コロナウイルスの状況により  
変更させていただく可能性があります。

## 【2階図書カウンター】

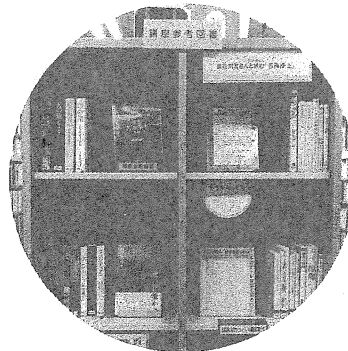
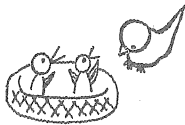
貸出し、返却はこちらまで。  
本をさがすお手伝いもいたします。  
お気軽におたずねください。



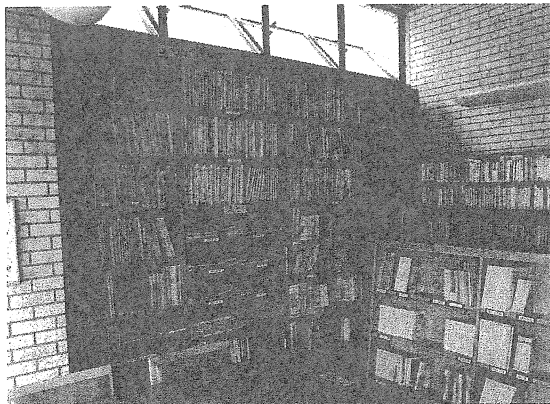
【2階新刊コーナー】

## 【貸出・返却等について】

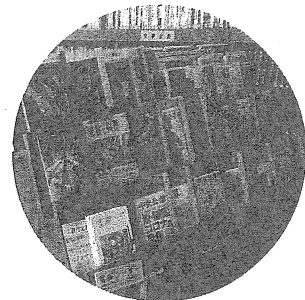
市内図書館を含め合計 10 冊まで、府中市、立川市、国分寺市、日野市にお住まいの方は 5 冊まで、3 週間借りられます。(予約のある本は 2 週間)。  
公民館図書室の本は、返却ポストや市内の図書館・各分室でも返却することができます。(そのほか詳しい案内は、カウンターで「利用のしおり」をお渡ししています。)



【講座参考図書コーナー】



【中 2 階の地域資料】



【中 2 階雑誌コーナー】



新着図書から

- 〔総記〕
- ジャーナリズムなき国の、ジャーナリズム論 大石泰彦編著 (彩流社) 070
- 〔歴史〕
- 戦国のコミュニケーション 山田邦明 (吉川弘文館) 214
- 戦争期少女日記 高良真木 (教育史料出版会) 218
- 長江日記 ある女性独立運動家の回想録 鄭靖和 (明石書店) 221
- ベトナム戦争と私 カメラマンの記録した戦場 石川文洋 (朝日新聞出版) 223
- ブラジルの都市の歴史 コロナ時代からコーヒーの時代まで 中岡義介 (明石書店) 262
- アフリカから、あなたに伝えたいこと 島岡由美子 (かもがわ出版) 289
- 〔社会科学〕
- 人殺しの花 大貫恵美子 (岩波書店) 311
- ポスト・ヒューマンイズムの政治 土佐弘之 (人文書院) 312
- 〔地域〕 から見える天皇制 河西秀哉 (吉田書店) 313
- 野蠻の言説 差別と排除の精神史 中村隆之 (春陽堂書店) 316
- 大学生のための日本国憲法入門 吉田成利 (慶応義塾大学出版会) 323
- 裁判官も人である 岩瀬達哉 (講談社) 327
- 世紀末ベルリン滞在記 加藤淳 (彩流社) 334
- 希望のディアスポラ 早尾貴紀 (春秋社) 334
- 帝国に生きた少女たち 広瀬玲子 (大月書店) 334
- 会社は誰のものか 加藤裕則 (彩流社) 335
- 日本のセーフティーネット格差 酒井正 (慶応義塾大学出版会) 364
- 韓国徴用工裁判とは何か 竹内康人 (岩波書店) 366
- インドの女性と障害 女性学と障害学が支える変革に向けた展望 アーシャ・ハンズ編 (明石書店) 367
- ボランティアってなんだっけ? 猪瀬浩平 (岩波書店) 369

- 戦争に隠された「震度7」 木村玲欧 (吉川弘文館) 369
- 子どもの学ぶ権利と多様な学び喜多明人 (エイデル研究所) 370
- 解説教育六法 2020 解説教育六法編修委員会編 (三省堂) 373
- インディオの村通い40年 清水透 (岩波書店) 382
- 最新期の言葉の村へ ドン・クリック (原書房) 382
- 旅の効用 ベール・アンデション (草思社) 384
- 〔自然科学〕
- 地球温暖化で雪は減るのか増えるのか問題 川瀬宏明 (ベレ出版) 451
- 絶滅動物は甦らせるべきか? プリット・レイ (双葉社) 480
- 王朝貴族の病状診断 服部敏良 (吉川弘文館) 490
- 「鳥の目」と「虫の目」で追った厚生労働行政 日比野守男 (ブイツーンリユーション) 498
- ハンセン病療養所と自治の歴史 松岡弘之 (みすず書房) 498
- 〔工業〕 山本良一 (岩波書店) 519
- 気候危機
- 〔産業〕
- 満洲国のラジオ放送 代珂 (論創社) 699
- NNNDキュメント・クロニクル 1970-2019 丹羽美之編 (東京大学出版会) 699
- 〔芸術〕
- 画家たちのフランス革命 王党派ヴィジェリプランと革命派ダヴィッド 鈴木杜幾子 (KADOKAWA) 723
- 活動弁士の映画史 高槻真樹 (アルタープレス) 778
- 〔言語〕 中村明 (東京堂出版) 816
- 文章を彩る表現技法の辞典
- 〔文学〕
- 石井桃子論ほか 竹長吉正 (てらいんく) 909
- 犬のかたちをしているもの 高瀬隼子 (集英社) 914
- 結婚の奴 能町みね子 (平凡社) 914
- 夜告げ鳥 三島由紀夫 (平凡社) 914
- 魂の痕 梁石日 (河出書房新社) 914

インターネットで読める おすすめの作品

現在、本を手にとることが難しい方も多  
いと思いますが、インターネットを利用し  
て自宅で読書を楽しみませんか？

インターネット上の図書館「青空文庫」で  
は、著作権がなくなった作品などを公開し  
ています。パソコンや携帯電話などで、誰  
でも無料で作品の全文を読むことができま  
す。今回はその中からいくつかご紹介しま  
す。よろしければご活用ください。そして、  
またいつか公民館図書室で実際に本を手  
取ってお楽しみいただければと思います。

二葉亭四迷著 『浮雲』

江戸から明治となつて生活が大きく変わ  
つたこの頃、まだ主流ではなかった話し言  
葉と小説の文体が一致したこの作品は当時  
の人々を驚かせました。新旧の思想とのせ  
めぎ合いの中で、悩める日本人を描いた日  
本近代小説の先駆とされる作品です。

中原中也著 『山羊の歌』

夭折の詩人の処女詩集。少年期の作品『春  
の日の夕暮』に始まり、青春の迷いと孤独  
をうたった『寒い夜の自我像』、中也の最  
も有名な詩、口語の七五調『汚れっちまっ  
た悲しみに……』などが収録されています。

青空文庫ホームページ  
<https://www.aozora.gr.jp/>



## 公民館図書室のご利用について

公民館図書室は、新型コロナウイルスの感染拡大防止のため、しばらく休室しておりましたが、現在下記のとおり開室しております。

■ 6月2日(火)から

- ・資料の貸出、返却
- ・資料の予約
- ・予約した資料の受け取り
- ・館内図書館資料検索機の利用
- ・資料の閲覧  
(感染防止のため閲覧席の数を減らしています。)
- ・返却は各駅前や中央図書館、北市民プラザ図書館、公民館等、市内各所の返却ポストをご利用いただけます。

■お問合せ：国立市公民館 電話 042-572-5141

〈図書室を利用される皆様へのお願い〉

- ・発熱等の症状がある方は、入館をご遠慮ください。
- ・ご来館の際はマスクの着用をお願いします。
- ・短時間、最小限の人数でご利用ください。
- ・混雑時は職員の案内に従って間隔を空けてお待ちください。



この物語の主人公はハンスという真面目で勤勉な少年です。周囲の期待に応えようと勉強に勉強を重ね、秀な学校に入るハンスでしたが、ある出会いをきっかけに価値観の転換が起き、学校や過去の自分に対して見る目が変わっていきます。それに伴った心情の変化や葛藤を繊細に描いた作品です。100年以上昔に作られた物語なのに心ハズツと入ってくるのは、はみ出す者を必死に押し込めようとする社会の在り方が現代もさほど変わらないからかもしれません。

物語を読んでいる時、読み手はだんだんと主人公と溶け合っていきます。私は彼の視点を通して世界を見、彼と同じように教師へ失望し、苛立ちを覚え、息苦しさを感じました。そして、何の柵も無かった頃にした、川での魚釣りや路地裏探検を懐かしく思い出したりしました。確かにあつたはずの生き生きとした少年時代は過ぎ去り、なにかも捨ててきてしまったのだとハンスが絶望した時、私はふと気がつきました。自分には強く取り戻したいと思えるような少年時代も、強い反抗に駆り立てられるほど学校を恨んだことも無かったのだと。これはある意味幸せだと言えるかもしれません。ですが真綿で首を絞められている状況だと考えることも出来るかもしれません。ハンスの時代でも私たちの時代でも、「よい」生き方があるとい

〈私の本棚から 第3回〉

ハッセ著 高橋健二訳

### 『車輪の下』



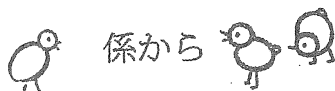
大久保 芽衣

う社会の確信は揺らいでおらず、一定の方向へ急ぎ立てられる生活は変わっていないのですから。

「教育と洗脳の違いは何か」。これは先日授業で、ある教授が投げかけた問いです。失ったものを失ったと気づくのは難しいのです。それが社会的に「正しい」とされた、善意で満ちたレール上の出来事であれば、尚更喪失に目を向けるのは難しいのです。ハンスは社会という車輪に押し潰されながら腕き苦しみ続けま

す。実はハンスのモデルはハッセ自身です。ハッセはハンスと同じ境遇を辿りながらも、ハンスとは違う道を選びます。傷を抱えつつもなんとかして立ち上がり、苦しみながらもそれを昇華し、これ以上押し潰されないように生きていく道です。私たちだって、どうにかして立ち直り、傷から目を背けて生きていくことを選ぶのでしよう。なんとなく知っていた車輪に潰される感覚をハンスを通して鮮明に感じ取ってなお、また車輪に踏み潰され、あるいは車輪として誰かを踏み潰しながら生きて行くしかないのです。車輪になるまいと思ながらも。

(新潮社)



### 係から

図書室のつどい、くにたちブッククラブは、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、5、6月の「図書室のつどい」は中止となりました。

「くにたちブッククラブ」については、5、6月の回について、延期とさせていただきますことになりました。変更後の日程につきましては、決定次第、図書室月報、公民館だより、ホームページでお知らせいたします。